**横尾議員**　それでは、まずは「地産地消施策の取り組みは」について質問します。令和６年６月議会で「地産地消施策の促進を」の質問に対して、担当課長から、「令和６年８月に町とハナエチゼン栽培研究会が協力し、地元産米の直接販売を実施した。」との回答がありました。その結果は、１番目として成果（実績）はどうであったのか。２番目に、また、その後の取り組みとして、一次産業分野での具体的な事例としては、どんな状況であるのかお伺いします。次に、「若者関係人口２千人を目指して」について質問します。この２千人を目指してとは「関係人口」創出・拡大施策に貢献いただいています「ＮＰＯ法人牟岐キャリアサポートセンター」の大西氏が、去る２月１１日に遊観で開催されました「牟岐町で活動する大学生・学生団体発表会」の最後の挨拶での発言でした。来年度の話ではありますが、それだけ牟岐町が学生たちに注目をされているんだと感心しました。２千人ということは牟岐町人口の３分の２近くになります。これほどの学生たちが来町するのに、地元の町民は学生たちの活動自体を知らない人が大勢います。本町に来町している各学生団体等の活動及び周知等の充実を図り、牟岐町民への理解を深めるべきではないかと考えます。そこで１つ目に委託事業者ホームページへのリンク。これはキャリアサポートさんとのリンク。２つ目に各大学サークル・ゼミ等の紹介や広報をしていくべきである。３つ目に牟岐町を現場としての事業予告・周知、牟岐町でどういうことが予定されているのかとか、また、その周知を図っていただきたいと思っています。等々を図るべきではないかと考えますが、町の見解をお伺いします。

**喜田議長**　枡富町長。

（枡富町長　登壇）

**枡富町長**　横尾議員ご質問の「地産地消施策の取組は」のご質問にお答えします。牟岐町においては、牟岐の農業所得の向上を図るため、関係団体の協力を得て、もち麦や実生ゆずなど地元食材を使用した加工品のＰＲや１００年フードに認定された実生ゆずを使用した牟岐の押し寿司を県内外の大学生等を通してＰＲ、また、地元野菜の地産地消の取り組みとして県内産直市での販売に力を入れてきました。また、新たな高収益作物であるモリンガの認知度拡大、販路拡大に向け、ＰＲを行ってまいりました。令和６年８月１４日に牟岐町と牟岐町ハナエチゼン栽培研究会が協力し、牟岐町産米ナエチゼンの直接販売を実施することができました。お盆の時期もあり、帰省した家族に購入す

る方がおり、当日予定していた販売分１袋あたり５㎏７６袋が完売したそうです。また、牟岐ふるさと会の会員向けにも販売することができました。今後は、米の価格推移を踏まえ、販売方法や実施時期を各関係者や各関係機関と連携、協議してまいります。学校給食に地元で獲れたアオリイカ、ジビエを使用したメニューや牟岐のもち麦を提供することができました。また、徳島県庁職員食堂において、徳島県庁ジビエフェアとしまして、牟岐町内で捕獲されたシカのジビエ料理が期間限定ですが、提供することができました。今後は、あらゆる機会を捉えて地産地消の取り組みを行ってまいります。次に、「若者関係人口２千人を目指して」ご質問にお答えします。本町では、令和５年度から７年度にかけて、「第二のふるさと創出事業」を実施し、牟岐町で活動する若者が継続的に地域と関わり、「第二のふるさと」と感じられる町づくりを進めてまいりました。本事業の運営は、特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）牟岐キャリアサポートに委託して取り組んでいただいています。その一環として、牟岐町で活動する大学生や若者の取り組みをまとめたホームページ「牟岐町大学生・若者活動図鑑」を発信しています。各大学や団体、牟岐キャリアサポートの活動内容をまとめ、ＳＮＳなどへのリンクも整備することで、町内外に向けた情報発信の基盤を構築しています。若者の活動を一元的に「見える化」することで、地域の魅力発信にもつなげてまいります。また、町民との交流を深めるため、マリンフェスティバル、姫神祭り、産業祭などの町内イベントへの出店や活動報告の場を設け、直接顔の見える関係づくりにも取り組んでいます。学生からは「自分たちの活動を町民に知ってほしい」という声も寄せられ、主体的な情報発信への意欲が高まっていることも特徴です。具体例として、ＮＰＯ法人ひとつむぎによる広報誌「ふらいき新聞」が作成され、今回「広報むぎ」とあわせて全世帯に配布しました。若者自らが発信する取り組みは、町民の理解を深める上で非常に意義のあるものと考えています。一方で、若者関連事業が個別に発信される傾向があり、全体像としての認知や理解が十分でない点は課題です。今後は、若者の活動全体を象徴するキャッチフレーズの設定や統一的なビジュアルの活用などにより、各取り組みを横断的に束ね、「プロジェクト」として一体的に周知できるよう工夫を進めてまいります。情報発信については、年４回発行の「広報むぎ」を軸としたアナログ媒体での丁寧な発信に加え、ホームページやＳＮＳを活用したデジタル発信も強化し、双方を組み合わせた効果的な広報に取り組んでまいります。発信力の強化は依然として課題ではありますが、町民の皆様に若者の活動をより身近に感じていただき、誇りや共感につながるよう、継続的かつ戦略的な情報発信に努めてまいります。以上です。

**喜田議長**　横尾議員。

**横尾議員**　ありがとうございます。地産地消については、お米の販売が完売したと、大変好評だったと思います。また、その後の取り組みということでは、学校給食へ提供されたり、県庁食堂へジビエとか提供されているということですが、ただ、懸念するのが、継続してこういうことに取り組まれているかと、ジビエの県庁食堂での提供なんかは、ニュースにもなりましたし、そういうことでは認知はしていますけど、あと学校給食ですね。食材について、やっぱり地元産を提供できるような、無償化にもなっていますので、ここはどんなんですかね。入札的なこともあって影響もあるかも分かりませんけど、せっかくなら地元の子どもたちには、地元産の食べ物を提供してほしいなということについて、もっと突っ込んで、そういった面ではどうなのかということを再問したいと思います。それから、若者人口２千人ということは、実際に１千人ほど来られている中で、大西さんから聞きますと、逆に注目を集めていると、牟岐町の活動についてですね。ということで、大学の方から依頼がだいぶあるのだということをお聞きしました。こういう言えば、日本一と言ったら、今は成果があるということなので、これは情報発信していかないともったいないなと。非常に議員をしていましたら、そういうところをやっぱり、各イベントごとには出展するのは分かっていますけど、学生という身分なので、３年、４年経てば入れ替わっていくということで、そこまでで終わったらもったいない。先ほどの津田議員の質問にもありましたが、関係人口でずっとつながっていって、最後には移住して起業していただくというのが理想であると考えます。町長の答弁にもありましたけど、よく考えられているなと思いますし、ただ、牟岐町ホームページ、私が今さっき初めて知ったのですけど、若者活動図鑑、こういうことをされているということを私は知らなかったので、ただ、牟岐町のデジタルブックというのが、このページがありまして、そういうところでも周知をしてほしいと、また、そういうところのページをＱＲコードを使って、各職員の名刺の裏に印刷していただいて、そこから飛んで行ってもらって、私たちもＬＩＮＥで同窓会グループを作っています。そういうところに飛んでいって、牟岐町はこういうことでやっていますということが、そこから飛んでいってもらって、いろんな情報を取れるという仕組み作りをぜひやってほしいと思います。先ほどの地産地消の再問について、もう一つ答弁をお願いします。

**喜田議長**　久産業課長。

**久産業課長**　横尾議員の再問にお答えします。学校給食での地元産の米は、継続できたらしていきたいと思いますが、学校の出る学校給食の予算もありますので、米の価格もありますので、それはちょっと関係機関と協議が必要なのかなと思いますが、継続していくことは大事なことだと思いますので、また、検討させていただきます。

**喜田議長**　横尾議員。

**横尾議員**　ぜひ検討をよろしくお願いしたいと思います。私の質問は、以上で終わります。